

## 第6分科会 今日の課題 SDGs・ウェルビーイング

共 催 野々市市 野々市市教育委員会

会 場 野々市市文化会館 フォルテ

日 程 13:00 ~ 受付  
13:30 ~ 13:45 オープニングアトラクション  
13:45 ~ 14:05 開会行事  
14:15 ~ 15:15 基調講演  
15:15 ~ 15:30 実践発表  
15:40 ~ 16:45 パネルディスカッション  
16:45 閉会行事後 終了



野々市市コミュニティバス『のっティ』

## 祝 辞



野々市市長

栗 貴章

第73回 日本PTA全国研究大会 石川大会が、このように盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。また、全国各地より石川県にお集まりくださいましたことに、地元自治体として深く感謝申し上げます。

また今回の大会では、石川県立音楽堂のメイン会場に加えて石川県内6か所にサテライト会場が設けられており、その一つとして本市・野々市市でも分科会が開催されますことは大変光栄であり、心より歓迎申し上げます。

本大会が「サステナブルな未来づくりのために ～創造と協働を 石川から～」をテーマに開催されますことは、これからの時代におけるPTA活動のあり方を示すものとして、非常に意義深く感じております。

今、子どもたちを取り巻く環境は複雑かつ多様化しており、家庭・学校・地域が連携し、持続可能な社会の実現に向けて力を合わせていくことが求められています。

本市でも、教育大綱において「地域と共にある学校づくり」を基本施策として掲げ、令和4年度よりコミュニティ・スクール制度を導入しました。市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、地域学校協働本部を通じて地域人材と学校をつなぐ体制の構築を目指してきました。

また、市民や企業の皆様にボランティア登録をしていただき、地域と連携した授業も展開するなど、地域総がかりで子どもたちの育成に取り組み、地域の教育力の向上に努めているところでございます。

これからも、家庭・学校・地域が連携し、子どもの確かな学力と豊かな人間性、健康な体を育ていくことができるよう取り組んでまいりますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会が皆様方にとりまして、学びと交流の機会となり、各地域におけるPTA活動のさらなる発展と、持続可能な未来への一歩となることを心より祈念いたしますとともに、公益社団法人日本PTA全国協議会、東海北陸ブロックPTA協議会、石川県PTA連合会の今後の益々のご発展と、関係者の皆様のご健勝並びにご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## 研究課題

# 質の高い教育環境を整えるために

～ PTAが今できること ～

### 現状と課題

情報通信技術や人工知能の発展など、近年の社会環境の変化は顕著で、将来を担う子供には今後も続くそうした社会環境の変化に柔軟に対応することが求められます。一方で、教職員不足や長時間労働等の問題により、現場の環境は必ずしも質の高い先進的な教育の提供に適しているとは言えない状況です。子供に質の高い教育環境を提供するために、我々PTAが何をできるのか、共に考えていきたいと思えます。

### 討議の視点

- ① 教育の質の向上に有効なPTA活動とは
- ② 持続的に発展可能な教育環境の構築につながるPTA活動とは
- ③ 地域文化の継承と先進的な学びを両立するためには
- ④ 被災・復興の過程でも質の高い教育を持続するには

### 提言者

- |            |          |                                 |
|------------|----------|---------------------------------|
| ○ 基調講演者    | 平本 督太郎 氏 | 金沢工業大学 SDGs推進センター所長             |
| ○ コーディネーター | 新田 英理子 氏 | 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク<br>理事・事務局長 |
| ○ パネリスト    | 平本 督太郎 氏 | 基調講演者                           |
|            | 坂江 裕美 氏  | ミネルバジャパン代表                      |
|            | 浦山 利博 氏  | 前川崎市PTA連絡協議会会長                  |
| ○ 実践発表者    | 中藪 陽平 氏  | 野々市市立館野小学校PTA                   |

## 基調講演「質の高い教育環境を整えるために」

パネリストとしてもご参加いただきます



## 平本 督太郎 氏

経 歴 :

慶應義塾大学環境情報学部卒。同大学大学院メディアデザイン研究科博士課程修了。

野村総合研究所勤務 金沢工業大学着任後、第1回ジャパンSDGsアワード（官房長官賞）受賞に大きく貢献したほか、受賞多数。

ESD推進のためのゲーミフィケーション教材を複数開発。日本全域の教育機関をはじめ、世界70か国60万人以上の人に提供。経済産業省、環境省、JICA、ジェトロにおけるSDGsビジネス関連の委員、日本放送協会（NHK）中部地方放送番組審議会委員長、沖縄県SDGsアドバイザリーボード会議委員、野々海市SDGs未来都市アドバイザリーボード座長他、日本政府・公的機関の委員を歴任。

共著者やメディア出演も多数。「10歳からの図解でわかるSDGs」（メイツ出版、2021年）は1万部を超えるヒット作となる。

講演要旨 :

本講演ではSDGsとウェルビーイングをテーマに、野々海市の事例を交えて紹介します。野々海市は「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選ばれている先進都市です。野々海市は金沢工業大学と連携し学生の力による地域課題の解決に取り組んできました。現在は大学だけでなく市内の小中高も巻き込んだSDGs推進が進んでいます。

本講演では、SDGsとウェルビーイング・地域のデジタル化推進が融合した取り組みを紹介します。例えば、地域幸福度指標を活用したエビデンスに基づく政策立案の試みです。自治体を横比較したデータによれば、野々海市のウェルビーイングに関する課題として、子育て施策が成功した結果によって生じた小中学校での教員不足に対する教育の質の維持があげられます。このようにデータに基づいて意思決定を行うことで、利害関係者間の対立や声の大きな主張に偏ることない意思決定環境を整えることができます。

また、実際に教育の質の低下を防ぐには、生徒だけでなく大人も課題解決に取り組むことが欠かせません。市民がサステナビリティのスキルを身につければ、地域の持続可能性の向上に大きく寄与できます。

講演要旨（続く） :

スタンフォード大学のニコール・アードゥイン准教授の研究によれば、環境教育の成果を地域の変革につなげる鍵は「地域課題への焦点」「専門家との協働」「行動要素の導入」「評価と記録」の4点です。これらを教育に組み込めば、若者が「自分たちでも社会を変えられる」という自信を育むことができます。そのためには、PTAを含む大人が大きな目標を小さなステップに落とし込み、誰もが取り組めるよう支えることが求められます。

そこで登場するのが、生成AIです。生成AIは単なる検索エンジンではなく、対話によって思考を拡張するツールです。適切に使えば、目標設定や具体的なステップ策定にも役立ちます。例えば、AIを使って地球規模の課題と身近な課題を両立する目標を考案し、小さな行動を積み重ねて課題解決につなげることも可能です。こうしたツールを使いこなすには、地域のデジタルリテラシーを高めることも重要であり、それが地域のサステナビリティとウェルビーイング向上につながります。

SDGsとウェルビーイング、地域のデジタル化推進は、連動することで大幅に効果が増加する取り組みです。地域で子どもたちの未来を支えるため、PTAの皆様がどのような関わり方ができるのか、一緒に考えましょう。

## コーディネーター



### 新田 英理子 氏

経 歴 :

一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク・理事・事務局長

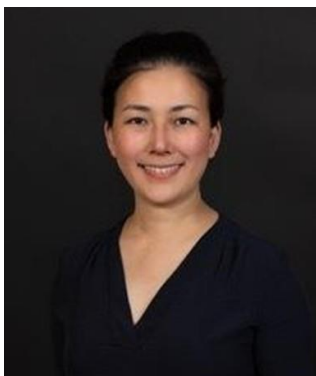
1998年より日本NPOセンター, 2014年8月から2017年3月まで同事務局長。法政大学人間環境学部非常勤講師 (NPO・ボランティア論担当)。

行政や企業のNPOとの連携・協働プログラムの相談や企画運営を行う。パートナーシップが最大限発揮されSDGsが達成されることを目指し、活動中。

社会の中で、デジタル革命が進み、これまで見えなかったことにされていた差別や格差が見えるようになってきました。

このような時代にこそさまざまな立場から多様に対話を進めることだと実感しています。皆様との対話を楽しみにしています。

## パネリスト



### 坂江 裕美 氏

経 歴 :

ミネルバジャパン代表

三井物産株式会社勤務 その後EdTech領域の企業に取締役として従事しながら、ミネルバ大学Master of Scienceを修了。

2024年 清泉女子大学地球市民学科カリキュラム顧問。

2025年 ミネルバ大学アジア担当副学長 (アドバンスメント部門)。

ウェルビーイングとは、単なる幸福ではなく、自分らしく、他者とつながりながら生きる力を育むことだと感じています。ミネルバ大学で世界の若者の学ぶ環境をつくるなかで、多様な問いと向き合い、自分の軸を育てる教育の力を実感しています。子どもたちが未来に希望を持てる社会とは何か。教育と地域の現場をつなぎながら、皆様と対話できることを楽しみにしています。

## パネリスト



## 浦山 利博 氏

経 歴 :

第72回日本PTA全国研究大会川崎大会実行委員長  
前川崎市PTA連絡協議会会長

空撮動画工房『まちとり うらやま』 Spatial Visions (川崎市防災協力事業所)を主宰  
国立研究開発法人 防災科学技術研究所 元研究者  
特種情報処理技術者 3級陸上特殊無線技士 4級アマチュア無線技士。

本分科会では川崎大会のテーマであるウェルビーイング（幸せ）を継承していただきました。これまでどの大会においても一過性ではないテーマを掲げており、これを繋いで浸透と進化を図り実践することが大切です。

基盤となる家庭の幸せを求めない方はいないはずです。お会いしたことがなくとも多くの方々に通じるこの想いを再びお伝えできる機会をいただきありがとうございます。

## 実践発表

### 「質の高い教育を持続可能にするために」

野々市市立館野小学校PTA

○学校所在地 〒921-8802 石川県野々市市押野三丁目71 番地

児童数：424 名 学級数：15 組 P T A 会長名：小川 貴敬

野々市市立館野小学校は、「心豊かでたくましくすすんで学び合う子」の育成を教育目標に掲げ、地域とともにある学校づくりを進めています。学校運営協議会と地域学校協働本部が連携する「コミュニティ・スクール」として、保護者や地域の声を積極的に学校運営に取り入れ、協働による子どもたちの育成に力を入れています。

○実践発表の要旨 :

① 教員の「本来の業務」に集中できる環境づくりを目指して館野小学校PTAでは、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」を足元から支えるため、地域の立場から何ができるかを考えてきました。

○実践発表の要旨（続く）：

日本の教育現場では、教員の長時間労働が深刻化しており、月45時間以上の残業を行う教員が多数存在しています。過労死ラインに相当する月80時間超の残業に及ぶ教員も少なくありません。令和5年度には精神疾患による教員の休職者数が初めて7,000人を超え、退職に至るケースも増加しています。このような状況は、教員が本来担うべき「子供の学びと成長の支援」という本旨業務に集中できない要因となっており、教育の質と持続性そのものを脅かしています。そこで私たちは、「教育の持続可能性」を支えるために、教員の業務を間接的に支援する仕組みを地域でつくりたいかと考えるに至りました。

② 地域と保護者による学習支援活動の実践

その具体的な取り組みが、公民館を拠点とした保護者有志による学習支援教室です。この教室では、学校と連携しながら参加を希望する児童を対象に、春休、夏休、冬休に月2回程度の学習会を実施。算数や国語といった基礎科目を中心に、少人数形式で支援を行っています。学習内容は、苦手意識を和らげる工夫や、学ぶ楽しさを実感できるような関わりを重視。例えば、算数の基礎計算にゲーム感覚を取り入れたり、国語では文章の読み取り方を丁寧に教えるなどの工夫を凝らしています。この活動により、参加した子供からは「授業がわかるようになった」「テストの点数が上がった」といった声が聞かれ、少しずつ自信が育まれています。また、活動を通じてPTA内の保護者同士のつながりが自然と生まれ、近年では地域の元教員やシルバー世代の方々の参加も見られるようになり、世代を超えた連携が広がり始めています。

③ PTAの課題と「これから」の問いかけ

私たちのこの取り組みは、確かな手応えを感じる一方で、PTA組織自体の課題とも向き合っています。現在、館野小学校PTAでは規約上の定数を満たせていない状況が続いています。決して保護者の無関心によるものではなく、「PTAは重そう」「責任が大きすぎる」といった心理的ハードルが、参加をためらわせているのが現実です。

PTAは任意のボランティア組織でありながら、現場には未だ「断りづらさ」や「やらされ感」が存在しています。昭和から続くこの構造を、私たちは令和の今こそ見直すべきではないかと考えています。共働き世帯や単身家庭、転入世帯の増加など、保護者を取り巻く環境は大きく変化しています。その中で、PTAだけが旧来の仕組みのままでは、持続可能性を失ってしまいます。

今こそ、PTAを「誰かがやるもの」から「私たちが関わりたいもの」へ、「参加しづらい組織」から「参加したくなる組織」へ、変化させる時ではないでしょうか。地域と学校と家庭が、もう一度手を取り合いながら、子どもたちの学びと成長を支えていくために。私たちはまだ模索の途中ではありますが、「よりよいかたち」を探し続けながら、できることから一歩ずつ前に進んでいきたいと考えています。